

# 消防年報

平成27年版



少張市消防本部

# は し が き

この年報は、当市の消防現況及び消防行政執行状況並びに平成  
27年中の火災、救急統計を集録したものです。

なお、この年報は特記したものを除き、平成27年12月31日  
現在で集録したものです。

平成27年12月

夕張市消防本部

# 目 次

## 1. 夕張市の現況と消防の沿革

(1) 地 勢	-----	1 頁
(2) 人口・世帯・消防職員数の推移	-----	2 頁
(3) 消防の沿革	-----	3 頁

## 2. 総 務

(1) 消防機構図	-----	16 頁
(2) 消防職員配置表	-----	17 頁
(3) 消防職員勤続年数表	-----	18 頁
(4) 消防職員年齢構成表	-----	18 頁
(5) 消防職・団員教育訓練等	-----	19 頁
(6) 消防職員特殊技能資格	-----	20 頁
(7) 消防団員配置表	-----	21 頁
(8) 消防団員勤続年数表	-----	22 頁
(9) 消防団員年齢構成表	-----	22 頁
(10) 叙位・叙勲・褒章受章者	-----	23 頁

## 3. 警 防

(1) 車両配置表	-----	26 頁
(2) 無線局一覧表	-----	27 頁
(3) 消防水利	-----	31 頁
(4) 消防庁舎・消防分団詰所	-----	32 頁

## 4. 救急・救助

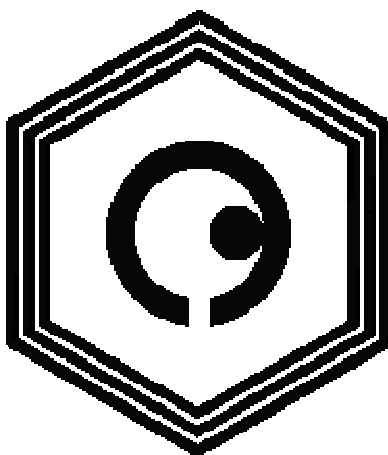
(1) 月別救急件数	-----	33 頁
(2) 曜日別救急件数	-----	34 頁
(3) 時間別救急件数	-----	35 頁
(4) 過去 5 年間救急件数	-----	36 頁
(5) 傷病程度別件数	-----	37 頁
(6) 年齢区分別件数	-----	38 頁
(7) 救急講習実施状況	-----	39 頁
(8) 過去 5 年間救助件数	-----	40 頁

## 5. 予 防

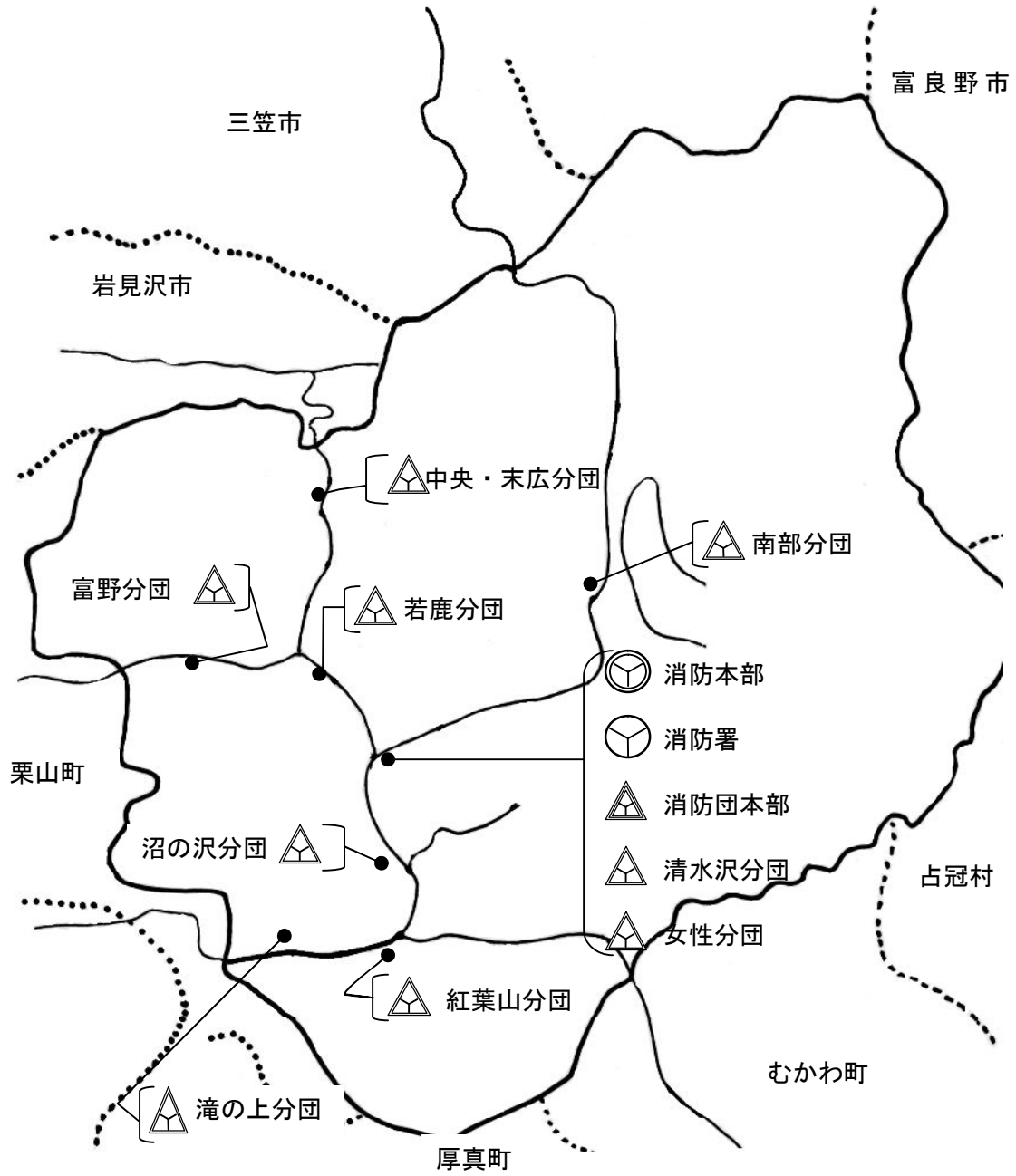
(1) 火災の概況	-----	41 頁
(2) 月別火災発生状況	-----	42 頁
(3) 過去 5 年間の月別火災発生状況	-----	42 頁
(4) 過去 5 年間の曜日別火災発生状況	-----	43 頁
(5) 過去 5 年間の時間別火災発生状況	-----	43 頁
(6) 覚知別火災発生状況	-----	44 頁
(7) 原因別火災発生状況	-----	45 頁
(8) 過去 5 年間における損害額の比較	-----	45 頁
(9) 過去 5 年間の地区別火災件数	-----	46 頁
(10) 過去 10 年間の火災発生状況	-----	47 頁
(11) 過去 10 年間における火災種別の割合	-----	47 頁
(12) 危険物製造所等の設置状況	-----	48 頁
(13) 危険物類別保有量【第 4 類】	-----	49 頁
(14) 危険物製造所等別設置状況	-----	49 頁
(15) 危険物製造所等地区別設置状況	-----	50 頁
(16) 危険物製造所等許認可状況	-----	51 頁

(17) 手数料収入額状況	-----	51 頁
(18) 対象別避難訓練実施状況	-----	52 頁
(19) 防火管理者選任数	-----	52 頁
(20) 防火管理者選任状況	-----	53 頁
(21) 建築確認同意（構造別・用途別）	-----	54 頁
(22) 建築確認同意（用途別・地区別）	-----	55 頁
(23) 防火団体	-----	56 頁

# 1. 夕張市の現況と消防の沿革



(1) 地 勢



## (2) 人口・世帯・消防職員数の推移

人口・世帯数

平成27年12月31日現在

人 口	男	4,232 人	9,056 人
	女	4,824 人	
世 帯 数			5,183 世帯

人口・世帯数・消防職員数の推移（過去20年分）

年 別 \ 区 分	人 口	世 帯 数	消防職員数
平成 8 年	17,176	7,935	58
平成 9 年	16,621	7,749	59
平成 10 年	16,121	7,624	59
平成 11 年	15,722	7,522	57
平成 12 年	15,361	7,462	56
平成 13 年	15,081	7,391	55
平成 14 年	14,626	7,264	53
平成 15 年	14,134	7,092	53
平成 16 年	13,806	7,031	51
平成 17 年	13,417	6,867	50
平成 18 年	12,828	6,628	47
平成 19 年	12,198	6,392	38
平成 20 年	11,739	6,224	38
平成 21 年	11,355	6,128	40
平成 22 年	10,944	5,970	39
平成 23 年	10,588	5,833	40
平成 24 年	10,211	5,679	38
平成 25 年	9,801	5,476	39
平成 26 年	9,440	5,319	38
平成 27 年	9,056	5,183	40



### (3) 消防の沿革

明 治		
30年	7月	私立夕張第1砦消防組発足
35年	6月	本町1・2・3丁目火災 焼失戸数435戸 死者13名
	11月	公立登川消防組発足 初代組頭 棚橋久作氏就任
39年	5月	本町4・5丁目火災 焼失戸数515戸
42年	4月	公立登川消防組2部制を採用
43年	8月	丁末1・2区火災 焼失戸数115戸

大 正		
3年	3月	本町4丁目火災 焼失戸数157戸
5年	5月	私設大夕張消防隊(南部)発足 隊長 並木松之助氏就任
7年	2月	村名 夕張と改称 公立夕張消防組となる
8年	1月	公立紅葉山消防組発足 初代組頭 野瀬辰五郎氏就任
9年	6月	大夕張(南部)義勇消防組発足組頭 新豊利右衛門氏就任
10年	5月	公立夕張消防組3部制を採用 2代目組頭 水谷新次郎氏就任
11年	4月	本町4・5丁目火災 焼失戸数339戸
	5月	公立夕張消防組4部制を採用 3代目組頭 南部立根氏就任 公立真谷地消防組発足 初代組頭 高橋善右衛門氏就任 ガソリンポンプ1台購入 公立夕張消防組器具置場2ヶ所新設
12年	12月	公立夕張消防組 成績優秀につき金馬簾1条使用許認 公立夕張消防組 4代目組頭 中川平蔵氏就任
13年	7月	公立夕張消防組 5代目組頭 田代末喜氏就任
14年	8月	公立夕張消防組 6代目組頭 両角嘉平氏就任
	9月	大夕張義勇消防組を公立大夕張消防組に改組 初代組頭 小紙元春氏就任
15年	4月	公立楓消防組発足 初代組頭 福原信俊就任
	7月	公立夕張消防組 成績優秀につき各部全員金馬簾2条使用許認

昭 和		
2年	2月	高松1区火災 焼失戸数119戸
3年	1月	公立真谷地消防組 成績優秀につき金馬簾1条使用許認
	3月	公立真谷地消防組ガソリンポンプ1台購入
	4月	公立夕張消防組 特科部（破壊班）設置
4年	4月	高松1区火災 焼失戸数165戸
	8月	公立清水沢消防組発足 初代組頭 高橋東助氏就任
	9月	公立夕張消防組第2部詰所 本町5丁目1条通りに新設 三菱大夕張鉱業所鹿島移転
	10月	私設三菱大夕張義勇消防組（3部制）発足 公立夕張消防組第3部（本町1丁目）新築移転
	11月	特科部器具置場警察署前に設置
5年	11月	本町2丁目火災 焼失戸数235戸 三菱大夕張義勇消防組を公立大夕張消防組に合併改組 本部を千年町に置き3部制を採用（1部千年町、2部南部3部鉱業所）
6年	4月	公立沼の沢消防組発足 初代組頭 三好定太郎氏就任
9年	9月	公立夕張消防組 常備制採用常備消防本部設置 初代本部長 岡村亀吉氏就任（常備員9名） 公立大夕張消防組規律訓練優秀につき金馬簾1条使用許認
	10月	旭町火災 焼失戸数194戸 死者1名 ポンプ自動車2台購入 本部第2部に配置
10年	1月	公立夕張消防組 7代目組頭 岡村亀吉氏就任
	5月	公立夕張消防組第2部本町4丁目（現本町支署地）に詰所を 新築移転 望楼（14m）設置
12年	10月	公立夕張消防組常備消防本部長 岡村亀吉氏退任 2代目本部長 越田雪次郎氏就任
14年	4月	勅令「警防団令」公布により、公立夕張消防組を夕張警防団に改組 部落消防組を分団として統合 初代警防団長 前田一氏就任（常備本部17名）
15年	3月	夕張警防団長 前田一氏退任
	4月	2代目団長 能瀬莊吉氏就任
	5月	大夕張警防団発足（大夕張分団が夕張警防団から独立） 初代団長 山内亀三郎氏就任

16年	5月	大夕張警防団長 山内亀三郎氏退任
	6月	2代目団長 片岡頼義氏就任
	7月	夕張警防団第2部増改築 常備本部移転（ポンプ自動車2台配置） 第1部、第2部を本部に統合 夕張警防団第3部本町1丁目にポンプ自動車1台、常備員2名配置 夕張警防団清水沢分団にガソリンポンプ1台配置
	9月	ポンプ自動車1台購入 常備本部に配置
	12月	第7部（若菜）ポンプ自動車1台 常備員1名配置
17年	2月	夕張警防団長 能瀬荘吉氏退任
	3月	大夕張警防団3部制を採用（第1分団 鉱業所、第2分団 千年町 第3分団 南部） 夕張警防団 3代目団長 宮崎猪三郎氏就任
18年	4月	市制施行 大夕張警防団 鹿島警防団に改称
19年	8月	夕張警防団長 宮崎猪三郎氏退任 鹿島警防団長 片岡頼義氏退任
	9月	夕張警防団4代目団長 万仲余所治氏就任 鹿島警防団3代目団長 松井栄氏就任
21年	1月	鹿島警防団長 松井栄氏退任
	2月	4代目団長 吉田重明氏就任
	4月	鹿島警防団長 吉田重明氏退任 5代目団長 久保簾三氏就任
	5月	5代目団長 久保簾三氏就任
22年	2月	鹿島警防団長 久保簾三氏退任
	3月	6代目団長 池田幸吉氏就任
	4月	「警防団令」公布により、夕張警防団を夕張消防団に改称 初代団長 越田雪二郎氏 就任
	8月	鹿島警防団を鹿島消防団に改称 初代団長 池田幸吉氏就任
23年	3月	夕張消防団長 越田雪二郎氏退任
	4月	団長職務代理者 橘内末吉氏就任
	5月	夕張消防団第5部（末広）詰所新築 ポンプ自動車1台 常備員1名配置
	12月	夕張市消防団設置条例制定
24年	4月	夕張市消防団設置区域 組織に関する規制制定に伴い夕張消防団 9分団 定員403名 鹿島消防団6分団 定員245名に改組
	5月	本町1・2・3丁目火災 焼失戸数335戸 死者1名

		鹿島消防団長 池田幸吉氏退任
	6月	2代目団長 石坂秀一氏就任
	10月	夕張消防団長職務代理者 橋内末吉氏退任
	11月	消防本部設置条例が制定され消防本部、消防署設置 初代消防長 菅原重太郎就任 職員57名任用発令
		夕張消防団 2代目団長 福田正美氏就任
25年	5月	鹿島消防団長 石坂秀一氏退任
	6月	3代目団長 肥後国吉氏就任
		丁末分遣所 真谷地分遣所設置 ポンプ自動車1台 職員各1名配置
		清水沢市街火災 焼失戸数52戸
	10月	ポンプ自動車1台購入
	11月	清水沢分遣所設置 ポンプ自動車1台 職員各1名配置
26年	5月	鹿島消防団長 肥後国吉氏退任
	6月	4代目団長 新井格二氏就任
	9月	ポンプ自動車1台購入
27年	5月	真谷地市街火災 焼失戸数121戸 死者1名
28年	5月	南部分遣所設置 ポンプ自動車1台 職員各2名配置
	6月	空知消防操法訓練大会ポンプ車操法に中央分団が出場し準優勝
29年	4月	豪雨と融雪出水による水害 末広、鹿の谷、新千代田 浸水家屋237戸
		鹿島消防団長 新井格二氏退任
	5月	5代目団長 福原鉄夫氏就任
	9月	台風15号による風害 全市 風害による被害家屋367戸
30年	2月	鹿島消防団長 福原鉄夫氏退任
	3月	6代目団長 中山正人氏就任
	4月	消防職員定数改正(定員80名)
	12月	ポンプ自動車2台購入 丁末分遣所 南部分遣所へ配置
31年	4月	鹿島消防団長 中山正人氏退任
	5月	7代目団長 福田正氏就任
32年	6月	ポンプ自動車2台購入 清水沢分遣所 沼の沢分団へ配置
33年	4月	消防職員定数改正(定員95名)
	7月	ポンプ自動車2台購入 若菜出張所 紅葉山分団へ配置
	9月	台風22号による風水害 全市 風水害による被害家屋261戸

34年	4月	清水沢分遣所を出張所に改組 職員7名配置
	9月	消防長 菅原重太郎退任
	10月	後任 南正吉（消防本部次長）就任 日本損害保険協会ポンプ自動車1台寄贈される
	12月	鹿島消防団長 福田正氏退任
35年	1月	8代目団長 志茂山正蔵氏就任
	2月	夕張消防団長 福田正美氏退任
	3月	3代目団長 岩田信夫氏就任
	4月	消防職員定数改正（定員99名）
	5月	千年分遣所設置 ポンプ自動車1台 職員各2名配置
	6月	清水沢出張所庁舎 市職員住宅と併設し新築移転
	9月	消防本部庁舎新築 望楼 一斉指令電話（ずい北地区）設置
36年	1月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置
	7月	福住分遣所設置 ポンプ自動車1台 職員2名配置 集中豪雨による水害 全市 水害による被害家屋400戸
37年	2月	夕張消防団長 岩田信夫氏退任
	3月	4代目団長 北村正久氏就任
	4月	消防職員定数改正（定員102名）
	7月	鹿島消防団 消防庁長官から表彰状授与
	8月	台風9号による水害 全市 水害による被害家屋338戸
	10月	ポンプ自動車2台購入 本署、鹿島出張所へ配置
38年	4月	消防専用無線電話装置設置 基地局4局、移動局10局
	7月	消防職員定数改正（定員105名）
	8月	鹿島消防団長 志茂山正蔵氏退任 9代目団長 藤平寛氏就任
	9月	紅葉山分遣所設置 職員2名配置
	12月	ポンプ自動車2台購入 清水沢出張所、若菜出張所へ配置 鹿の谷分遣所を鹿の谷生活館新築に併設しポンプ自動車1台 職員2名配置
39年	1月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置
	3月	消防本部 夕張消防団 消防庁長官から竿頭授与
	4月	市役所より救急車の移管を受け救急業務開始 末広分遣所廃止
40年	2月	ポンプ自動車2台購入 真谷地分遣所、楓分団へ配置

	4月	消防職員定数改正（定員106名） 鹿島消防団長 藤平寛氏退任
	5月	10代目団長 吉岡和夫氏就任 沼の沢分遣所設置 ポンプ自動車1台 職員1名配置 紅葉山分遣所庁舎新築移転
	12月	ポンプ自動車1台購入 南部分遣所へ配置
41年	1月	夕張消防団 鹿島消防団 北海道知事から竿頭授与
	3月	夕張消防団 鹿島消防団 消防庁長官から表彰旗授与
	8月	広報車購入 本署へ配置 集中豪雨による水害 若菜以北 水害による被害家屋835戸
	11月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置 消防長 南正吉退任
	12月	夕張市助役 吉田久消防長事務取扱として就任 若菜出張所庁舎新築移転
42年	4月	消防職員定数改正（定員104名）
43年	2月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置 救急車1台購入（本署救急車更新）
	3月	南部分遣所庁舎新築移転
	4月	消防職員定数改正（定員101名）
	9月	鹿島消防団長 吉岡和夫氏退任
	10月	11代目団長 小泉勤氏就任
	12月	水槽付ポンプ自動車1台購入 鹿島出張所へ配置
44年	4月	消防職員定数改正（定員99名）
	11月	夕張市助役 吉田久消防長事務取扱解任
	12月	後任消防長 八反田政男（消防本部次長）就任
45年	1月	ポンプ自動車1台購入 鹿島出張所へ配置
	3月	登川駐在所庁舎新築移転 千代田中学校火災
	6月	指揮車購入 本署へ配置
	11月	日本損害保険協会からポンプ自動車1台寄贈 沼の沢分遣所へ配置
46年	8月	夕張消防団長 北村正久氏退任
	9月	5代目団長 安達敏雄氏就任 ポンプ自動車1台購入 鹿島出張所へ配置 鹿島消防団長 小泉勤氏退任

10月	12代目団長 浅山五生氏就任
47年12月	夕張消防団長 安達敏雄氏退任
48年1月	6代目団長 高山泰氏就任
3月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置
4月	乗用車1台購入 本署へ配置
8月	災害用救命ボート購入 本署へ配置
10月	ポンプ自動車2台購入 清水沢出張所、菊水分団へ配置
11月	鹿島消防団長 浅山五生氏退任
12月	13代目団長 佐藤健一氏就任
49年3月	登川駐在所を楓分遣所に改組 職員2名配置
4月	南部分遣所を出張所に改組 職員4名配置 菊水分遣所設置 ポンプ自動車1台 職員2名配置
11月	沼の沢分遣所庁舎新築移転 職員2名配置 ポンプ自動車1台購入 南部出張所へ配置
12月	福住分遣所廃止
50年4月	消防職員定数改正（定員96名）
7月	北海道消防操法訓練大会小型ポンプ操法に中央分団が出場し準優勝
8月	消防長 八反田政男退任
9月	後任消防長 鶴川伸（水道部長）就任 1丁目分遣所庁舎新築
11月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置 元北陵中学校火災
51年3月	末広分団器具置場新設 ポンプ自動車1台配置
6月	鹿島消防団長 佐藤健一氏退任
7月	14代目団長 太田好彦氏就任
52年8月	千年分遣所廃止
10月	救急車（2B型）1台購入 清水沢出張所へ配置
11月	南部出張所庁舎新築移転 職員8名配置 菊水分遣所廃止 電話普及により火災報知機撤去
53年1月	ポンプ自動車1台購入 南部出張所へ配置
4月	消防職員定数改正（定員94名）
8月	夕張消防団長 高山泰氏退任
9月	7代目団長 品川義雄氏就任
10月	消防職員待機住宅1棟4戸新築（南部東町）

		消防音楽隊発足（隊員 27 名）
	12月	丁末分遣所廃止
54年	1月	富野分団詰所移転改修 ポンプ自動車 1 台配置
	2月	ポンプ自動車 1 台購入 清水沢出張所へ配置
	4月	消防職員定数改正（定員 91 名）
	5月	消防長 鷗川伸解任
	6月	後任消防長 中村克好（市長公室長）就任
	11月	滝の上分団詰所新築移転 消防職員待機住宅 1 棟 4 戸新築（南部東町）
55年	1月	ポンプ自動車 1 台購入 本署へ配置
	5月	鹿島消防団長 太田好彦氏退任
	6月	15 代目団長 安月允也氏就任
	9月	日本損害保険協会からポンプ自動車 1 台寄贈 真谷地分遣所へ配置
	10月	真谷地分遣所庁舎新築移転
	12月	ポンプ自動車 1 台購入 本署へ配置
56年	4月	消防署組織の規程改正 清水沢出張所、南部出張所を支署に改組
	7月	北海道消防ポンプ車操法に清水沢分団が出場し準優勝
	10月	ポンプ自動車 1 台購入 紅葉山分遣所へ配置
	11月	沼の沢分遣所ホース乾燥塔 サイレン新設 夕張消防団長 品川義雄氏退任
	12月	8 代目団長 石川十四夫氏就任
57年	4月	消防職員定数改正（定員 83 名）
	7月	消防長 中村克好解任（総務部長発令） 後任消防長 小椋正一（民生部長）就任
	10月	富野分団サイレン塔新設 ポンプ自動車 1 台購入 沼の沢分遣所へ配置
58年	3月	鹿島消防団長 安月允也氏退任
	4月	16 代目団長 星靖男氏就任 消防職員定数改正（定員 80 名）
	10月	清水沢支署庁舎及び待機宿舎新築移転 同支署に通信司令室を設置 消防緊急指令装置 サイレン吹鳴遠隔装置を導入
	11月	ポンプ自動車 1 台購入 楓分遣所へ配置
	12月	鹿島出張所新築移転 夕張南高等学校火災



59年	4月	消防職員定数改正（定員78名）
	5月	三菱南大夕張炭鉱下請従業員宿舎火災（鹿島栄町） 保険金目当ての放火による出火 消防職員1名殉職
	6月	指揮車購入 本署へ配置
	8月	ポンプ自動車1台購入 1丁目分遣所へ配置
	9月	日本損害保険協会から救急車（2B型）1台寄贈 清水沢支署へ配置
60年	9月	ポンプ自動車1台購入 鹿の谷分団配置
	11月	消防署組織の規程改正 1丁目分遣所、鹿の谷分遣所、真谷地分遣所を廃止分団へ移行
61年	4月	消防職員定数改正（定員73名）
	9月	ポンプ自動車1台購入 南部分団へ配置
	11月	消防署組織の規程改正 楓分遣所を廃止分団へ移行 消防長 小椋正一退任
	12月	夕張市助役 中村克好 消防長事務取扱として就任
62年	5月	夕張市助役（消防長事務取扱）中村克好氏退任
	6月	夕張市助役 梶田秀男 消防長事務取扱として就任 夕張市助役 梶田秀男 消防長事務取扱解任 鹿島消防団長 星靖男氏退任
	7月	後任消防長 佐々木茂（消防署長）就任 17代目団長 野田眞氏就任
	9月	末広分団車庫増築 消防職員定数改正（定員67名） ポンプ自動車1台購入 若菜出張所へ配置
	11月	幌南分団詰所新築
	12月	若菜出張所庁舎新築移転 救急車更新 本署へ配置
63年	4月	消防署組織の規程改正 若菜出張所、鹿島出張所を分遣所へ移行 夕張消防団長 石川十四夫氏 北海道消防協会長に就任
	5月	夕張消防団長 石川十四夫氏 日本消防協会副会長に就任
	6月	第40回北海道消防大会開催（於 夕張市総合体育館）
	8月	日本消防協会から指令広報車1台寄贈 清水沢支署へ配置
	10月	消防職員定数改正（定員65名）
	11月	広報原調車購入 本署へ配置 水槽付消防自動車購入 清水沢支署へ配置

平成		
元年	9月	ポンプ自動車1台購入 中央分団へ配置
	11月	鹿の谷分団詰所新築
2年	7月	鹿島消防団長 野田眞氏退任
	8月	日本消防協会から救急車(2B型)1台寄贈 清水沢支署へ配置 日本消防協会から婦人消防隊に軽可搬ポンプ2台寄贈
	9月	ポンプ自動車1台購入 幌南分団へ配置
	10月	消防職員定数改正(定員63名) 日本損害保険協会から水槽付消防自動車1台寄贈 本署へ配置
	11月	夕張消防団条例改正 鹿島消防団が夕張消防団に統合 菊水分団を廃止 1本部15分団 定員387名に改組 夕張消防団に初の女性消防団員30名入団
3年	8月	日本消防協会から婦人消防隊に軽可搬ポンプ1台寄贈
	9月	ポンプ自動車1台購入 滝の上分団へ配置
	10月	消防職員定数改正(定員60名) 第7回全国婦人消防操法大会に婦人消防隊出場(横浜市)
4年	9月	ポンプ自動車1台購入 富野分団へ配置
	10月	消防職員定数改正(定員58名)
	11月	富野分団詰所新築 サイレン吹鳴遠隔装置更新
5年	9月	第17回婦人防火全国大会開催(於 夕張市総合体育館) ポンプ自動車1台購入 沼の沢分遣所へ配置
	10月	消防長 佐々木茂退任
	11月	後任消防長 竹村弘二(消防本部次長)就任
	12月	消防署組織の規程改正 南部支署を清水沢支署に統合 南部分遣所に改組
6年	11月	消防署組織の規程改正 沼の沢分遣所を廃止分団へ移行
7年	3月	消防長 竹村弘二退任
	4月	後任消防長 石井忍(消防本部次長)就任 消防本部及び消防署設置条例改正 消防本部及び消防署を清水沢宮前町(旧清水沢支署を増築)へ移転 消防署組織の規程改正 消防署清水沢支署を消防署に消防署を本町支署に消防署清水沢支署南部分遣所を消防署南部分遣所に

	消防署清水沢支署紅葉山分遣所を消防署紅葉山分遣所に改組 鹿島分遣所を廃止分団へ移行
11月	消防団条例改正 夕張消防団を夕張市消防団に改称
12月	若菜分遣所を廃止分団へ移行
8年 1月	沼ノ沢4部にサイレン1基増設(沼の沢分遣所を廃止分団移行による)
3月	紅葉山165番地の紅葉山分遣所を紅葉山117番地に新築移転
11月	在宅老人緊急通報システム本署通信司令室に設置 ポンプ自動車1台購入 本署へ配置 救急自動車(2B型)1台購入 本町支署へ配置
12月	消防本部庁舎43.06㎡を増築
9年 6月	消防長 石井忍退任
7月	後任消防長 藤村吉彦(消防署長) 就任 指令車1台購入 本部へ配置 北海道消防操法大会ポンプ車操法に夕張市消防団混成チームが 出場準優勝
10年 3月	消防長 藤村吉彦退任 団長 石川十四夫氏退任
4月	後任消防長 板谷義昭(消防本部次長) 就任 後任団長 大西巖夫氏(消防団副団長) 就任 大夕張分団が解団 1本部14分団 定員366名に改組
11年 10月	道東自動車道 千歳、夕張間開通 高速自動車道事故対策訓練実施
12年 1月	火災原因調査車1台購入 本部へ配置
3月	高規格救急自動車1台購入 本署へ配置 消防長 板谷義昭退任
4月	後任消防長 菅井信治(産業経済部長) 就任
7月	清陵宮前分団が解団 1本部13分団 定員350名に改組
11月	梯子自動車(15m)1台購入 本署へ配置
13年 4月	中央分団詰所を本町支署へ移設 南部分遣所を廃止分団へ移行
14年 1月	資機材搬送車(2t車、クレーン付)1台購入 本署へ配置
3月	消防長 菅井信治退任
4月	後任消防長 渡邊孝紀(消防本部次長) 就任

		本町支署を本町出張所に改称
		本町支署の救急2号車を引揚げ本署に配置
	6月	石狩川水防公開演習に夕張消防団23名参加
	9月	夕張消防公設100年記念事業実施
15年	6月	本町地区サイレン移設
	11月	自治体消防55周年記念大会出席
16年	9月	台風18号の暴風による家屋被害、長時間停電被害、他に農業 土木・観光施設被害等 117棟
	12月	低気圧の暴風・大雪による長時間に渡る停電被害
17年	3月	消防長 渡邊孝紀退任
	4月	後任消防長 佐藤公穂（消防本部次長）就任
	9月	夕張市防災訓練実施
18年	1月	指揮広報車購入 本署へ配置
	2月	水Ⅱ型消防ポンプ自動車購入 本署へ配置
	4月	南部分団と幌南分団が統合 1本部12分団 定員350名に改組
	10月	紅葉山分団と楓分団が統合 1本部11分団 定員350名に改組
		消防本部・消防署組織の条例及び規則改正
	12月	夕張市消防音楽隊廃止
19年	3月	消防長 佐藤公穂退任
	4月	後任消防長職務代理 鷺見英夫（消防本部次長）就任
		消防本部・消防署組織の条例及び規則改正
		消防本部に防災係、消防署に庶務・団係新設
		本町出張所を廃止 分団へ移行
		紅葉山分遣所を廃止 分団へ移行
		中央分団と末広分団が統合 1本部10分団 定員260名に改組
	9月	真谷地分団と沼の沢分団が統合 1本部9分団 定員260名に改組
20年	4月	若菜分団と鹿の谷分団が統合 1本部8分団 定員260名に改組
	9月	団長 大西巖夫氏退任
	10月	後任団長 小西真三氏（消防団副団長）就任
		救急自動車及び救急資機材寄贈 高規格救急車にぎ装 本署へ配置
21年	4月	消防長 鷺見英夫就任
	6月	防災倉庫新築
	7月	消防グループ制導入

10月	高規格救急車購入 本署へ配置
22年 1月	消防署隣接地にヘリポートを整備 旧本町出張所を解体
4月	夕張市消防長の任命の資格を定める条例制定
5月	大型水槽車購入 本署へ配置
12月	CD-1型消防ポンプ自動車購入 若鹿分団へ配置
23年 3月	東日本大震災にともなう緊急消防援助隊職員派遣
5月	東京消防庁総監視察
7月	訓練塔設置
10月	道東自動車道 夕張、占冠間開通 高速自動車道事故対策訓練実施
12月	CD-1型消防ポンプ自動車購入 紅葉山分団へ配置
24年 1月	東京消防庁との協力・交流事業
4月	女性分団発足 初代分団長 菅原光子
12月	CD-1型消防ポンプ自動車購入 中央末広分団へ配置 消防長 鷺見英夫退任 後任消防長 増井佳紀（消防本部次長）就任
25年 1月	東京消防庁との協力・交流事業 夕張市防災マップを作成
3月	夕張市防災講演会を実施（於 清水沢地区公民館）
12月	CD-1型消防ポンプ自動車購入 沼の沢分団へ配置
26年 1月	東京消防庁との協力・交流事業
11月	東京消防庁との協力・交流事業
12月	高機能消防指令システム運用開始 CD-1型消防ポンプ自動車購入 富野分団へ配置
27年 12月	CD-1型消防ポンプ自動車購入 滝の上分団へ配置